



38

改造お印

33

うと……

秀作 一とらか前々々の生活を支へる即
 けりもあらうと思つたのだ。右のうらわしは七
 度山金の無心を書いた。わしは笹山君の無心
 の半紙と書くたに、自分の心のあさましさに
 泣いた。金といふ此の、力の恐ろさには、わ
 しは金に、わしは死ぬまじいと思ひ
 とと考へるとわしは死ぬまじい。金だ、
 金だ、金だ！

光子

さあかへりませう。お冷えにはおるとい
 けりせんころ。

秀作

わしは死ぬまじいと思つた。わしは金に、
 まし金に、わしは死ぬまじいと思ひ
 は家を作つて四週うねば、わしは金に、
 あつたのだ。わしは死ぬまじいと思ひ
 作は出すことには、わしは金に、
 す方法は友情に頼るに、わしは金に、
 三十年來の美しい友情を金に替へたのだ。
 笹山君はわしの死んだ後、わしは金に、

MARUZEN

